

**なんとか科研費に採択されたい・・・。**

**～先生方のお言葉から考えていること～**

**農学生命科学部  
柏木 明子**

# 審査区分と審査方式の変更

## 【研究種目ごとの新たな審査区分と審査方式】

研究種目	応募区分	審査区分	審査方式
特別推進研究		人文社会系、 理工系、 生物系	総合審査 (書面審査及び合議審査) ※審査意見書(国内研究機関及び海外研究機関の研究者)の活用、ヒアリング審査の実施
基盤研究(S)		大区分	総合審査 (書面審査及び合議審査) ※審査意見書(国内研究機関の研究者)の活用、ヒアリング審査の実施
基盤研究(A)	一般	中区分	総合審査 (書面審査及び合議審査)
基盤研究(B)	一般	小区分	2段階書面審査
	特設分野研究		総合審査 (書面審査及び合議審査)
基盤研究(C)	一般	小区分	2段階書面審査
	特設分野研究		総合審査 (書面審査及び合議審査)
挑戦的研究(開拓・萌芽)		中区分及び特設 審査領域	総合審査 (書面審査及び合議審査)
若手研究		小区分	2段階書面審査

# 審査区分

## 大区分G 中区分

分子レベルから細胞レベルの生物学及びその関連分野

大区分G	
中区分42: 分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野	
小区分	
内容の例	
43010	〔分子生物学関連〕 染色体機能、クロマチン、エピジェネティクス、遺伝情報の維持、遺伝情報の継承、遺伝情報の再編、遺伝情報の発現、タンパク質の機能調節、分子遺伝、など
43020	〔構造生物化学関連〕 タンパク質、核酸、脂質、糖、生体膜、分子認識、変性、立体構造解析、立体構造予測、分子動力学、など

### 中区分

(分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野)

分子生物学関連、構造生物化学関連、  
機能生物化学関連、生物物理学関連、  
ゲノム生物学関連、システムゲノム科学関連

- ・ 基盤 (B、一般) , 基盤 (C、一般) では審査区分に大きな変更はないと思われる。
- ・ 挑戦的研究 は 中区分及び特設審査領域

〔機能生物化学関連〕	
43060	ゲノム、遺伝子資源、ゲノム動態、など
〔システムゲノム科学関連〕	
43060	ネットワーク解析、合成生物学、バイオデータベース、バイオインフォマティクス、ゲノム解析技術、ゲノム生物学、など
中区分44: 細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野	
小区分	
内容の例	
〔細胞生物学関連〕	
44010	細胞骨格、タンパク質分解、オルガネラの動態、核の構造機能、細胞外マトリックス、シグナル伝達、細胞周期、細胞運動、細胞間相互作用、細胞通信、など

# 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、 若手研究の書面審査における評点基準等

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01\\_seido/03\\_shinsa/index.html#shinsakitei](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html#shinsakitei)

- ・ 審査方式は、合議審査を行わず、同一の審査委員が2段階にわたり、書面審査を実施する「2段階書面審査」で採否を決定する。
- ・ 1段階審査で、4段階の相対評価が行われる。
- ・ 2段階審査には、1段階審査の順位が採択予定件数付近の研究課題と一部の審査員が極端に低い評点を付した研究課題が審査対象となる。

（参考）平成29年度新規採択研究課題の採択率

基盤研究（B）（一般）	25.4%
基盤研究（C）（一般）	29.6%
若手研究（A）	23.6%
若手研究（B）	30.2%

**1段階審査で高い評価を取ることが重要**

## 短期計画・長期計画

科研費申請については年間を通して考えていないといけない。  
(弘前大学科研費説明会でのお言葉)

- ・ 申請書を書く時に気を付けること (短期的)
- ・ 研究体制の確立や維持 (長期的)

## 短期的：申請書類の形式が変更

昨年度申請	今年度申請
<b>研究目的（2ページ）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学術的背景（国内外での位置づけ、着想に至った経緯）</li> <li>・ 研究期間内にどこまで明らかにしようとするか</li> <li>・ 学術的な特色・独創的な点、期待される結果と意義</li> </ul>	<b>研究目的、研究方法など（3ページ以内）</b>
<b>研究計画・方法（2ページ）</b>	<b>本研究の着想に至った経緯など（1ページ）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着想に至った経緯</li> <li>・ 国内外での位置づけ</li> <li>・ これまでの研究活動</li> <li>・ 準備状況と実行可能性</li> </ul>
<b>研究業績（2ページ）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去5年分+それ以前</li> </ul>	<b>過去の研究業績（2ページ以内）</b>
<b>これまでに受けた研究費とその成果等</b>	--- ⇒ <b>本研究の着想に至った経緯</b> これまでの研究活動に散りばめる？
<b>研究経費、研究経費の妥当性・必要性（紙面に記入）</b>	<b>研究経費とその必要性（Webにて入力）</b>
<b>今回の研究計画を実施するにあたっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法（半ページ）</b>	---

# 短期的：申請書類の形式が変更

様式S-14 研究計画調書（添付ファイル項目）

基盤研究（C）（一般）1

## 1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領111頁参照）を参考にしてください。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述してください。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述してください。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述してください。

**（概要） ※10行程度で記述してください。**

- ・ 枠がなくなっています。  
但し、余白の設定は変えないように

**（本文）**

# 評点要素

## [評点要素]

### (1) 研究課題の学術的重要性・妥当性

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。

### (2) 研究目的、研究方法の妥当性

- ・研究目的が明確であり、その研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。
- また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。

### (3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

### (4) 研究課題の波及効果

- ・本研究課題によって成果があがった場合、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

それぞれの項目に対して、

4：優れている 3：良好である 2：やや不十分である 1：不十分である

に対して、絶対評価を行う。その後、相対評価で4段階に振り分ける。

## 2段階目審査

評点区分	評 定 基 準	評点分布の目安
A	2段階目の審査の対象となった研究課題のうち、最優先で採択すべき	採択予定件数に応じて調整
B	2段階目の審査の対象となった研究課題のうち、積極的に採択すべき	
C	2段階目の審査の対象となった研究課題のうち、採択してもよい	
D	A～Cに入らないもの	
—	利害関係があるので判定できない	—

## 審査員を

1. いらいらさせない
2. 安心させる
3. 審査員が審査意見を書きやすいような一文を

## 審査員をいらいらさせない

やる気のある大学院生が読んでるくらいの理解力やで。  
(科研費審査に対するお言葉)

審査員が読むときに止まらないよう、流れるように読める文章で。

細胞名や酵素名等の略語はできるだけ避ける（例：LK-2株）  
若しくは最初に出てくる場面で簡単な説明を必ず付す。

審査員のご専門は、申請者の専門と同じではない！

専門がそこまで遠くない近隣の先生に読んでいただく。  
学内のアカデミックチェックを受ける。  
やる気のある大学院生に読んでもらう。

申請者が気にしていることと、  
審査員が気にすることは大きく違う！！！！

# 審査員を安心させる

## 申請期間内で 十分遂行できます！ アピール

- ・ 予備データの提示
- ・ (できれば) 綿密な計画

### 評価項目

#### (3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・ これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・ 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

## 審査員が評価を書きやすい一文を

評点区分（相対評価）	評点分布の目安
4（非常に優れている）	10%
3（優れている）	20%
2（普通）	40%
1（劣っている）	30%
利害関係があるので判断できない	

上記の評点分布に従って、相対評価をし、更に「**審査意見**」欄に『**当該研究課題の長所と短所を中心とした審査意見を必ず記入してください**』（採点基準より抜粋）

〇〇という問題を解決するための新しい手法を開発するものであり、新規性と独創性がある課題だ。

〇〇という問題点に対してx xの視点からアプローチし、△△のメカニズムを明らかにするものであり、大変有意義だ。

# 長期的計画（1）

科研費申請については年間を通して考えていないといけない。  
（弘前大学科研費説明会でのお言葉）

## 年間を通じた取り組み

- ・ 業績 . . . . 研究遂行能力があります！
- ・ 学会への参加 . . . . 招待講演の依頼は断らない。  
（私は）怪しいものではありません！
- ・ 共同研究を組む . . . . 新しい視点で研究を見る。  
共著論文の執筆につながる。

### 3 研究代表者および研究分担者の研究業績

本欄には、研究代表者、研究分担者がこれまでに発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち重要なものを選定し、  
現在もしくは過去から発表年次の順に、通し番号を付して2頁以内で記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入  
する場合は、**論文、著書、産業財産権、招待講演のうち重要なもの**  
学術誌論文

以上の項目が記入されていれば、各項目の順序の入れ替えや、著者名が多数の場合、主な著者名のみ記入しその他の著者を省  
略することは問題ありません。なお、省略する場合は、省略した員数と、研究代表者、研究分担者が記載されている順番を○  
番目と記入してください。

研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線を付してください。

## 長期的計画（2）

### ・研究体制の維持

- + 一緒に研究を遂行する学生に研究の楽しさを伝え、やる気をあげる。
- + 海外からも興味を持ってくれる学生を獲得する。

留学生受け入れ体制の充実

### ・産業財産権の取得

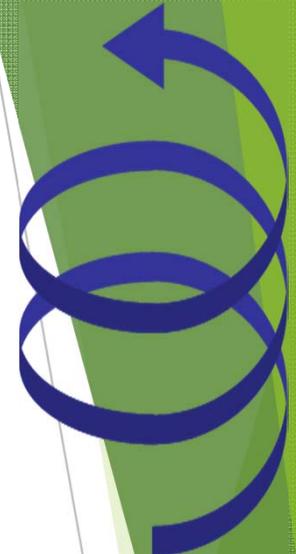
- + 特許権、商標権、実用新案権、意匠権

**「産業財産権等の知的財産権を有する場合はその旨記入してください。  
（特許出願番号等）」**

（研究計画書作成・記入要領（新規）研究業績記入に関する注意事項より抜粋）

産業財産権を取得しやすい、特許出願しやすい体制

### ・大学とは学問をする場であるという環境づくり



正のスパイラルへ